

イギリス的な情景

— the scenes in Britain —

早稲田大学 教授
小田島 恒志

(第30回)

ちょっと変わった食の話二編

12年前にロンドンで暮らしていた時のこと。訪問研究員として受け入れてくれたロンドン大学の先生を我が家へ食事に招くことにした。ちょうど、その先生の両親がカナダから来英しているということで、それなら是非一緒に、と誘うと、大いに喜ばれた。というのも、「私の母は小麦と乳製品のアレルギーがあって、食事に苦労しているんです。だから、日本食が大好きで、お誘い頂けるのはありがたい」ということだった。

これを聞いて、料理の腕をふるう気満々だった妻がさらにやる気を高めたのだが、招待した日の数日前になって慌て出した。「たいへん。お醤油(soy sauce)って小麦が入ってるんですって！」今時ロンドンでも醤油が簡単に手に入ることに驚かなかったのだが、どれを見ても「成分(ingredients)」のところに「小麦(wheat)」と書いてあるのには吃驚した。試しに日本の大手の会社に問い合わせしてみたところ「弊社の商品にはすべて小麦が使用されています」という。これは困った。

だが、ネット社会というのはありがたい。なんとかWEB上で小麦不使用(wheat free)のsoy sauceを見つけ出して、通販で取り寄せ、当日の

料理に間に合ったのだ。やれやれ。

ところが、その後、いつも買い物をしている近所のスーパーの棚に、このwheat freeのsoy sauce(同じ製品)を見つけた時はさらに驚いた。なんだ、普通に買えるのか。ってことは、普通必要があるってことか。初めてTeriyaki sauceをスーパーで見た時よりも驚いた。

28年前にロンドンにいた時にも、食文化のことで、別の意味でちょっと驚いたことがあった。当時、夫婦揃って学んでいた大学院の同級生が、我々を家に食事に招いてくれた時のことだ。彼女と彼女の彼氏(法律家だという)が、二人ともヴェジタリアンだということをお宅へ到着してから知った。別にこちらとしては構わない。逆に、どうしても肉食に偏りがちな食生活に変化ができてありがたい。出された料理を見て、あっ、と思った。皿の上にはいろいろな食材が混ざって盛り付けてある中のところどころ見えているこれは…彼女が言った「それね、tofuって言うの。知ってる、tofu?…」豆腐に驚いたのではない。豆腐って知ってる?と聞かれたことに驚いたのだ。いや、「豆腐」は知ってるけど「tofu」は初めて、と答えるべきだったのか…。